令和 7年11月1日
第 222号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 中村丈二
電話 972・6606

八方原のお米収穫作業が完了

強力なディーゼルエンジンで稼働するコンバインハーベスター

コンテナバッグを数個ずつ積載

10月1日から後半の稲刈りが始まりました。「日本晴れ」と「中手新千本」の二品種の収穫です。面積は約20ヘクタールです。

稲刈りは濡れていると難しいので、天候に左右されます。天気の良い日でも、日が差しだして、夜露が乾く時間から作業が始まります。

この時期の圃場はところによっては稲よりも雑草の方が背が高くなっているところがあります。しかし大型のコンバインはものともせずに、稲と一緒に刈り取っていきます。そして稲穂の先端の「もみ」だけを残して、茎や葉の部分は小さく切って機械の後部から排出しています。

重量のあるものはフォーリフトが活躍、右端に映っているのは今年導入された機械、小ぶりだけれど作業が速い

残った「もみ」はタンクの中に貯められていき、いっぱいになると、専用の袋に移していきます。タンクから長い腕が伸びてもみを送ります。らせん状になった回転軸がもみを送っていくのです。もみを傷つけないように、しかも素早く送ることができます。

そして７５０kgが入るコンテナバッグに入れられたもみはクレーンでトラックの荷台へ積み込まれます。

たくさんの市民が参加 新山口市誕生２０周年記念式典

10月4日、新市誕生20周年記念式典が山口市民会館で行われました。平成17年10月1日、1市4町が合併し、新しい山口市が誕生し、その後阿東町が参加して現在の市の形となりました。既に20年の時間が経過したとは、驚くばかりです。

多くの方々の表彰が行われ、多くの来賓から祝辞が述べられました。式典の後に記念講演があり、「県都物語」という本を書かれた西村幸夫国学院大学教授の話がありました。

ステージで挨拶する伊藤市長は、背後のスクリーンにも表示。右手の来賓席は３列に並ぶ多さ

山口市がいかに歴史の遺産を残し、活用しているかを再認識させられるものでしたが、これはそのまま「八方原」に当てはまるかもしれません。

ペット葬祭施設計画は山地に変更で承認

10月19日、臨時総会が開催されました。議題は「ペット葬祭施設の入居について」でした。本紙でも前号で状況について情報提供をしました。

当初からの計画では高山造庭園の跡地に葬祭施設を建設するということでしたが、業者の説明では当初の案とは異なりペット葬祭施設を地区東側の山地（旧高山造庭園の作業場所）に建設し、当初予定していた場所には、ドッグランなどの関連施設を計画していることが分かりました。

議論は急展開となり、様々な影響や予想される問題についてはあるものの、建設の大筋については同意することとなりました。

中学校の運動会は今

9月27日山口市立小郡中学校の運動会が行われました。数年前の感染症対策の影響で、大会を縮小し、保護者の来場も制限するなどの対策が取られた影響が残っており、昼食時間のない半日の開催です。

徒競走では、時間の短縮のためにどんどんスタートするのでゴールテープが間に合わないこともありました。伝統だった部活対抗リレーなどはありませんが、新しい競技種目もできて、興味深いものでした。

お馴染みの騎馬だけれど、これでトラックを走るリレー。安全のために「乗り手はヘルメット着用。」

学校と地域をつなぐ大きな行事ですが、生徒の負担も考えて、午前中開催の今の形となっています。

秋穂二島にあるカントリーエレベーター。大量の米が保管されている

巨大なお米の保管庫
グレンプラザやまぐちを探検

この投入口で重量を測り。処理経路が決まる

バッグ下部にある紐を引くと「もみ」が流れる

一面で紹介したもみを積んだトラックは、秋穂二島地区のグレンプラザやまぐちに到着します。ここでは「もみ」の状態で余分な水分を除去し、保管に適した水分量15％程度にして低温貯蔵されます。

お米の値段が高騰していると言われます。農家の生産から出荷までには、こうした手間と時間がかかることが分かります。このグレンプラザでも出荷の際には、「もみすり」を行い、玄米の形で袋詰めされて行きます。

それでもまだ食用には適しません。それを精米してようやく家庭の食卓へ乗る準備が整います。

自治会緊急連絡網にご参加ください

メールの場合は左上の QR コード

ＬＩＮＥの場合は右下のＱＲコード